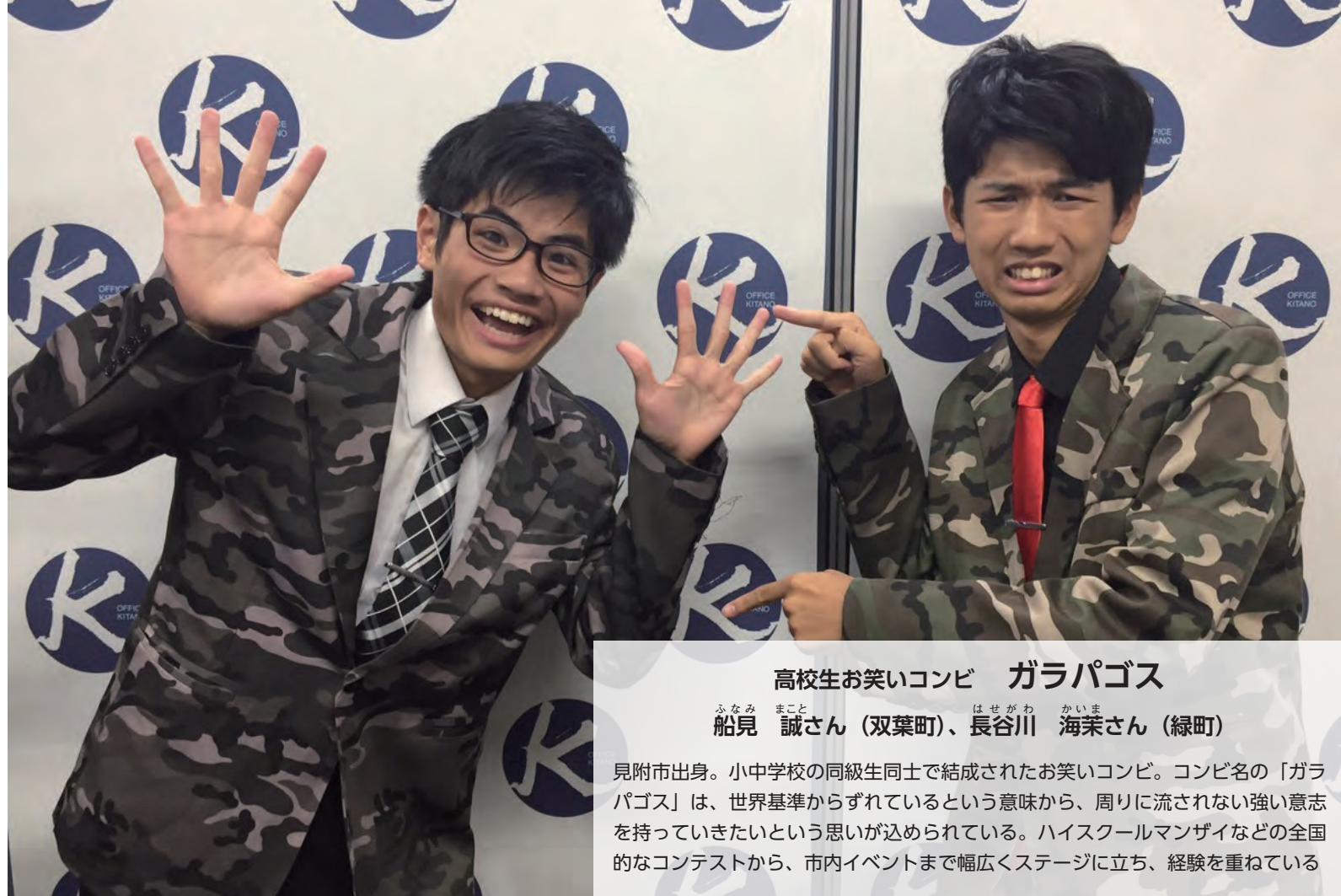


見附者

「見附者」は、見附にゆかりのある、頑張っている人、輝いている人を紹介するコーナーです。今回は、見附市出身の高校生お笑いコンビ「ガラパゴス」の2人を紹介します。
(題字・小倉美砂)



高校生お笑いコンビ ガラパゴス

ふなみ まこと 船見 誠さん(双葉町)、はせがわ かいま 長谷川 海菜さん(緑町)

見附市出身。小中学校の同級生同士で結成されたお笑いコンビ。コンビ名の「ガラパゴス」は、世界基準からずれているという意味から、周りに流されない強い意志を持っていきたいという思いが込められている。ハイスクールマンザイなどの全国的なコンテストから、市内イベントまで幅広くステージに立ち、経験を重ねている

日本で唯一無二の漫才師を目指して

とんねるずに魅せられガラパゴス結成

「5歳の時に、お笑いコンビ『とんねるず』をテレビで観たんです。石橋さん(とんねるずのメンバー)がとにかく面白くて…。いつの間にかお笑いの世界に引き込まれていました」

そう話すのは、高校生お笑いコンビ「ガラパゴス」ツッコミ担当の長谷川海菜さん。ボケ担当の船見誠さんとの2人組で、市内外問わず、数々のイベントに出演しています。

「子どものころから、テレビで有名になって、漫才師の頂点を決める『M-1グランプリ』の舞台に立つのが夢でした」という長谷川さん。転機が訪れたのは、中学2年の秋に、小中学校の同級生の船見さんに、自分の夢を打ち明けた時でした。

「誠は、ブラックコーヒーが飲める自分がかっこいいと思い、毎日2リットルもコーヒーを持ってくる面白い男なんです。でも、僕の悩みをいつも真剣に受け止めてくれる一番の理解者でもあります。だからこそ、コンビの相方になりたいと思ったんです」

お笑いにそこまで興味がなかったため、最初は誘いを断ったという船見さん。しかし、長谷川さんのお笑いに対する熱意に少しずつ心を動かされ、家族と相談の上、長谷川さんとのコンビ

結果は、初めての優勝。オフィス北野の役員にその実力を認められ、高校卒業後にオフィス北野に所属し、今年の春から、プロの漫才師としてデビューが決まりました。

将来について、「憧れの人はいるけど目標の人はいません。目標を作ってしまうと自分たちの個性が死んでしまうから。これからは、プロになるので他の芸人さんに負けないガラパゴスだけの魅力を見つけていきたいです」と2人は声をそろえます。

「周りに流されない強い意志を持ちたい」という思いを込めたコンビ名「ガラパゴス」。その名の通り、誰にも真似できない唯一無二の漫才を目指して、彼らはこれからも舞台に立ち続けます。



近所の田んぼに囲まれた場所で、初めは人が通ると恥ずかしかったが、今では人目を気にせず大声を出してネタ合わせをしている



見附での初舞台となったネーブル夏祭り。お笑いを楽しみに来た人が集まるお笑いライブと違い、たまたま集まった人を笑わせるのはとても難しいことを実感

なかったため緊張しましたが、自分たちのネタをやりきりました。
しかし、結果は準決勝敗退。「反復練習ばかりで、セリフのやり取りをするだけの漫才になっていました」と、2人は自分たちの敗因を分析しました。プロを目指すためには、人前で自然な漫才ができるようになる必要があると考えた2人。市内外のイベントやお笑いライブなどに積極的に参加し、経験を積みました。
誰にも真似できない自分たちだけの魅力を求めて
順調に経験を積み、迎えた高校最後の夏。プロへの道を目指して、オフィス北野主催の高校生お笑いオーディション「リセ」にエントリーしました。厳しいビデオ審査を通過し、最終選考に残った2人。オフィス北野所属のつまみ枝豆さんやダンカンさんなど有名芸人の前でネタを披露する権利を得ました。
迎えた最終選考。2人は4年間の思いを込め、プロの前で、自分たちの持てる最高の漫才を披露しました。
「そこまで笑わせることはできなかったけど滑っているという印象もありませんでした。全力でやり切ることができたので、悔いはありませんでした」



高校生お笑いオーディション「リセ」優勝後の記念写真。「優勝直後のことは緊張と感動であり記憶にあります。ただただ感謝の気持ちでいっぱいでした」

結成を決意しました。
船見さんは、「誘ってもらえてなかったら、つまらない日常を送っていたと思います。相方として選んでもらえたことは、とても運が良かったです」と振り返ります。

プロを目指して始動

結成後、プロのお笑い芸人を目指し、何度も話し合っただけでネタ作りに取り組んだ2人。「家だと大声が出せないの、迷惑にならないところを選びました」

と、ネタの練習場所は、田んぼのど真ん中や水道山公園でした。
学校が休みの日に3時間ほどネタ合わせの練習を重ね、高校2年の夏に迎えた初舞台。高校生のお笑いナンバー1を決める「ハイスクールマンザイ2018」に出場しました。
「とにかく多くのステージに立って経験値を積みたかったです」という長谷川さん。準決勝の11組に残り、ショッピングモールで約300人の観客の前にネタを披露しました。出番を待つ間、他の出場者が一切笑いを取れ